

# 道徳学習指導案

日 時 平成 28 年 6 月 2 日 公開授業Ⅱ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
1 年 A 組(男子 20 名, 女子 20 名, 計 40 名)  
会 場 集会室  
授業者 平 澤 傑

## 1 主題名 「自己責任の大切さ」 【1—(3) 自律・責任】

### 2 主題設定の理由

#### (1) 生徒観

本校生徒は、「生活トレーニング」という形で、全校でよりよい生活の在り方を追求し、生徒が自律的に生活の質を高めるといった活動を行っている。そのことにより、時間を守る、使った場所をきれいにするなど基本的な生活習慣を大切にしている。一方で、学校の生活上のルールは理解しているものの、時として誰にも見られていないと勝手気ままにふるまったり、場面によって判断基準を緩めたりすることがある。社会を生きる人間として、どのような場面でも自分の行動に責任をもつことや自分を律することができるようにすることが必要となってくる。

またインターネットへの関心と使用頻度が高くなっていく時期でもある。ネットゲームや SNS を気軽に利用する生徒が増えており、学校や家庭の管理が届かない場面が少なからず出てくる。そこで、自分一人でも正しい判断を行い、行動することが求められる。

道徳の問題に関しては、様々な場面で自己に内在化したはずの道徳的価値を現実的な場面で活かすことができない生徒が少なくない。頭では分かっているが行動できない・言ったことを実践できないという状態である。普遍的な行動力を身につけ、他者に意義を説明し行動を促したりするような道徳実践力を高めていくことが必要であると考えます。

#### (2) 価値について

学習指導要領において、内容項目 1—(3)は、「自分で考え、自分の行動に責任をもつ態度を育てる。」としている。

自分の行動に責任をもつためには、「責任をとる」ということがいかに大変なことかを知る必要がある。中学生の時期は、自我に目覚め、自分自身の行動は自分自身で決定したいという意志が芽生える。様々な活動を自主的に考え、行動するようになる。しかし、失敗しても何とかなるだろう、誰かが何とかしてくれるだろうという無責任な考えをもつことも少なくない。特に、自己決定を委ねられれば、奔放な生活を送ったり安易な方法を選択したりする。実際には、責任をとるためには、時に他者からの信頼を失ったり、挽回をするために並々ならぬ努力を要したりすることを知らなければならない。責任を他人に転嫁したり、ごまかしたりすることに罪悪感をもてるようにならないといけないのである。

同時に、自己決定したことに責任をもち、自己への尊厳を感じながら生きることがいかに誇らしいことかを感じることができれば、自律的な生き方を自らの意志でできるようになると考える。

さらに責任をもって行動することには、自分自身が責任を問われることだけでなく、他人に迷惑をかける可能性があることも押さえる。自分の意志だけでなく、他者の助言を参考にするような謙虚で誠実な生き方を自覚させたい。

### (3) 学びの本質とのかかわり

本研究における『学びの本質』に迫る手立てとして、本道徳授業では2点のことに重点を置くこととした。

第1に、道徳的価値観が問われる問題を、集団の力で解決することである。解決の過程で、自己内対話と他者との対話を繰り返し、現在の自分の価値観と他者の多様な価値観とを、比較・検討しながら新たな価値観を再構築させる。生徒同士で「どうしてそう思うか」「それで皆が幸せになるか」「いつ・どこで・誰にでもそうできるか」「そうした結果どうなるか」といった議論を通して、客観的でより公平な見地から納得し合える価値観を創造していくことができると考える。

第2に、発問構成を工夫することである。道徳性の情意的側面に偏らず、認知的側面、行動的側面から主体的に考えることができる状況を意図的につくる。生徒が問題場面向き合って、「登場人物はどうしたらよいか」「自分だったらどうしたらよいか」「人間としてどうあるべきか」などについて話し合いをするのである。そのことにより、道徳的価値観が問われる場面に主体的に関わり、多面的・批判的・創造的に問題と向き合うことができると考える。

## 3 資料について

(1) 資料名 『博史のブログ』（正進社 キラリ☆道徳①より）

### (2) 資料のあらすじ

博史はクラスや部活動のできごとを自分のブログで公開していた。定期考査の日、隣の席の奈々恵が不正行為(カンニング)をしているのを偶然見てしまった博史は、その出来事をブログに書いた。それを見たクラスメイトの宗佑からブログに書くべきでないと指摘され、今度は宗佑がカンニングをしていると嘘の情報を書いてしまう。その嘘が広まってしまい、後悔するという内容である。

## 4 本時の展開

### (1) ねらい

容易に責任はとれないということに気付き、自分の行動に責任をもち判断する態度を育てる。

### (2) 本時の指導の構想

まず導入では、生徒の軽い失敗経験について触れ、自分自身の行動が招いた失敗に関する内容であることを意識づける。生徒が挙げる失敗経験は、容易に挽回できる内容や生徒自身が損をして済む内容が多いと認識した上で資料へとつなげたい。

博史の最後の行動部分を削除したものを範読し、もう一度熟読し、あらすじを確認する。

展開前段では、博史のどんな行動に問題があったのか、またなぜそのような行動が問題だと思うのかについて記述する。班で、意見を一致させるための話し合いを行う。議論の中では行動よりもその根拠について深める。その中で、他人に深い傷を負わせたこと、社会への影響が大きいこと、博史が感情に任せて自分を律することができなかったこと、自分の行動に責任をもっていないことに気付くようにしたい。

展開後段では、博史がその日どのような行動をとるのかを考え、記述する。博史がどのように行動すれば責任をとることになるのか、学級で議論する。しかし、宗佑の気持ちやブログを見ている多くの人への影響を考えれば、どのような行動をとっても今さら簡単に責任をとることができないという結論にたどり着かせる。発問を踏まえ、博史の犯した行動の重大さを再認識するようにする。

博史の「行動」を問う2つの発問について議論する中で、生徒に内在する道徳的心情・道徳的判断を揺さぶり、価値に迫っていくことをねらう。

(3) 本時の展開

段階	生徒の学習活動、主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 4分	1 「これまで失敗した経験」を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微な失敗談 →容易に挽回できる内容や自分自身が損をして済む内容である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティ※1な議論を行うための環境づくりを行う。</li> <li>・自己の経験と資料を結び付けさせる。</li> </ul>
展開 36分	2 資料を読む。 3 2つの発問について考え、話し合う。 ① 「あなたは、博史のどんな行動に特に問題があったと思いますか。また、なぜそう考えますか。」について考える。 ○自分の考えを記述する。 ○班で議論する。 ○交流の内容を発表し、全体で深める。 ② 「その日、博史はどのような行動をとるでしょうか。」について考える。 ○行動と理由を記述する。 ○学級(班)で議論し、全体で深める。	<予想される生徒の考え> ・宗佑がカンニングしたという嘘の情報をブログで流したこと。 ○宗助を深く傷つける行為だから。 ・他人の情報をブログで流したこと。 ○他人が見て、多くの人に影響が出るから。 ○感情に任せて自分をコントロールできていないから。 ・カンニングを見て見ぬふりをしたこと。 ○すぐ先生に言うとおけば、ブログに書くところまで発展しなかったから。 <予想される生徒の考え> ・宗助に謝る。 →それだけでは責任を取れないのではないか。 ・ブログを消す。 →情報は拡散しているから今更取り返しがつかないのではないか。 ・本当は宗佑がカンニングしていないことをブログに書き、謝罪する。 →それならもしかしたら責任を取れるかもしれないが、もし自分が宗佑だったら、許せるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は、初めに範読し、1分間黙読させる。</li> <li>■学習シートへの記入 評価(道徳的判断力) →博史の行動の問題点を多角的・多面的に認知し判断しようとしているか。</li> <li>・考えた理由を中心に議論させる。</li> <li>・議論を通して、他人に深い傷を負わせたこと、博史の行動について、随所に自己責任が問われる場面があったことに気付かせる。</li> <li>■学習シートへの記入 ・記入を素早く読み取り、話し合いのコーディネートに活かす。</li> <li>評価(道徳的心情) →博史と宗助の心情を捉えながら、行動を決めようとしているか。</li> <li>・どのような行動をとっても、宗助の周りからの信用は取り戻せなく、宗助の気持ちが晴れることもないことに気付かせる。</li> </ul>
終末 10分	4 「今日の授業で考えたこと」を記述する。 ○記入し、発表し合い共有する。	○行動するときには、どのような結果になるのかをよく考え、責任をもって生活することが大切だと思った。等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習シートへの記入</li> <li>評価(道徳的実践意欲・態度) →自律・自己責任に関する行動をどのようにとっていくか記入しているか。</li> </ul>

## 5 評価

- (1) 自分で考え自分自身の行動に責任をもつことの大切さに気付くことができる。
- (2) 自分自身の行為一つ一つに大きな責任が伴うことに気付き、「責任をとる」ということがどれだけ大変なことであるか、気付くことができる。

※1 セイフティとは、誰もが自分の意見を言うことに恐れや躊躇を覚えずにすむ状態のことである。自由に発言し、気楽に質問や反論ができる雰囲気を作り出していくことをファシリテーターの最大の仕事としている。(河野哲也(2014)『こども哲学で対話力と思考力を育てる』河出ブックス p.59 より)

## 6 板書計画(例)※2

わたしの失敗談	
博史のブログ	
① あなたは、博史のどんな行動に特に問題があったと思いますか。また、なぜそう思いますか。	
宗佑がカンニングしたという情報を ブログで流したこと。 理由	他人の情報をブログで流したこと。 理由
相手に深い傷を負わせた 多くの人への影響を考えなかった	
勉強できないほどパソコンに没頭 し、行動を自己管理できていないこ と。 理由	他 理由
その日	
② その日、博史はどのような行動をとるでしょうか。	
宗助に謝る 理由	理由 ブログを消す
責任をとれない 心の傷は解消しない	
本当は宗佑がカンニングしていない ことをブログに書き、謝罪する 理由	理由 他、何もしないなど

※2 それぞれの意見について、考えた理由、価値に近づくためのキーワードを板書し、組織化する。

## 引用文献

河野哲也(2014)『こども哲学で対話力と思考力を育てる』河出ブックス